

1月 藤井哲郎教授が高柳記念奨励賞を受賞

藤井哲郎教授（環境情報学部 情報メディア学科）(*1) は、白川千洋氏（NTT スマートコネクト株式会社 取締役）との共同による「4K デジタルシネマ配信システムの研究開発及び規格標準化への貢献」が高く評価され、財団法人高柳記念電子科学技術振興財団より平成 22 年 1 月 20 日（於：アルカディア市ヶ谷、東京都千代田区）の贈呈式において 2009 年度高柳記念奨励賞を受賞しました。同賞は、「日本のテレビの父」(*2) と称される高柳健次郎博士の業績を記念し、毎年優れた研究業績のあった研究者に

対して同財団が授賞している制度です。なお、東京都市大学関係者では、初の受賞となります。



高柳記念奨励賞の記念楯



贈呈式で挨拶をする
藤井教授



受賞者による集合写真（藤井教授は前列左から二人目）

- *1) 藤井研究室ホームページ <http://www.yc.tcu.ac.jp/~flab/>
- *2) 高柳博士の業績紹介 <http://www.nhk.or.jp/str/aboutstr/evolution-of-tv/p05/index.html>

2月 環境情報学部と横浜市都筑区が地域連携協力の協定を締結

環境情報学部と横浜市都筑区では、2010 年 2 月 24 日（水）、相互の更なる発展を目指すことを目的とした協定を締結しました。

この協定は、大学の研究成果などを都筑区に還元するとともに、都筑区の課題に関する調査の実施を通じて更なる促進を図り、地域の活性化に資することを目的とするものです。なお、都筑区が同協定を大学機関と結ぶのは、初の試みとなります。

また、この協定の締結を契機として、都筑区の街の記憶と歴史を残し、次世代へ引き継ぐため「デジタルアーカイブ事業」を展開します。

締結式後には第 7 回地域連携調査研究発表会を開催し、本学部の学生が都筑区や横浜市が抱える課題について調査研究した成果を発表しました。

連携協力協定締結に関する概要
第 7 回地域連携調査研究発表会

<http://www.yc.tcu.ac.jp/news/image/pdf/20100225.pdf>
<http://www.yc.tcu.ac.jp/news/20100226.html>



協定書にサインをする増井忠幸学部長（左）と
吉田哲夫都筑区長（右）



サイン後に固い握手を交わす増井忠幸学部長（左）
と吉田哲夫都筑区長（右）

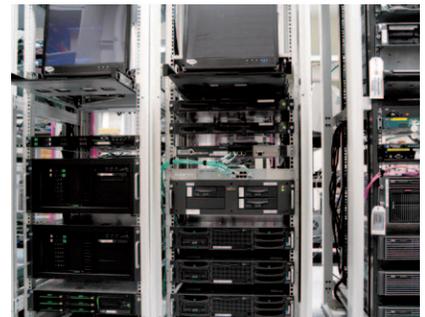
8月 情報機器更新

2010年8月の情報メディアセンター情報機器更新では3キャンパス統合アカウント管理システムの導入により、3キャンパスにおいて個別に運用されていたシステム認証を各個人専用アカウントにて行う事が可能になりました。それに伴いメールサーバが全学共通化され、東京都市大学共通ドメイン(ユーザー名@tcu.ac.jp)を使用できるようになりました。また、3キャンパス統合Windows認証環境を導入し3キャンパス統合アカウント管理システムを連携させることにより、全てのキャンパスの演習室のPCを自分のアカウントで使用する事ができるようになりました。

演習室においては両面Nアップ可能な環境に考慮した印刷課金システムを導入することにより、無駄な印刷物の抑止効果により環境負荷軽減が期待できます。メディアホールには教育・研究活動において自由に使用できるコイン課金式プロッターを導入しました。

演習教室PCが最新式の高性能な機種に変更になり今まで以上にストレスなく学習を行う事が出来ます。

また、PC変更に伴い最新OSであるWindows7の導入、及びPCにインストールされているOffice2010等のソフトも最新になりました。



9月 伊坪研究室が「MyToyota.jp」のホームページコンテンツ作成に協力

東京のトヨタ販売店の総合サイトである「MyToyota.jp」のコンテンツのひとつ「+Driving(プラスドライビング)」では、東京を出発地に気軽に行けるドライブコースを様々な切り口で紹介しています。2010年9月1日からは、「自然と調和+ドライビング エスティマハイブリッドで行くちょっとエコなちょっとしたゼミ旅行」と題したページが公開されています。



このページの制作には、東京都市大学環境情報学部環境情報学科・伊坪研究室の学生諸氏が取材協力しており、LCAの研究等に取り組んでいる同研究室の視点や企画が生かされています。相模湖、宮ヶ瀬湖をめぐり丹沢の入り口にあるヤビツ峠まで、環境負荷の少ないハイブリッド車を使用して取材が行われました。

ドライブの楽しさや面白さ、同研究室の取り組みが非常に魅力的に纏められたページです。

是非ご覧ください。



エスティマハイブリッドで行く
ちょっとエコなちょっとしたゼミ旅行
<http://www.mytoyota.jp/drive/university2010/>

10月 小池研究室が多摩市のコミュニティバスをデザイン

小池情報デザイン研究室は、2007年から東京都多摩市愛宕地区において「あたごミニバス」という住民主導でコミュニティバスを開通させようとする住民活動をデザイン



10月10日の開通式の模様 京王、小田急永山駅前(小池准教授はテープカットの右端)

面で協力し、2010年10月10日から3ヶ月間の試験運行が開始されました。10月10日の開通式には、住民代表、阿部多摩市市長、小池准教授、多摩市役所、京王電鉄バス関係者が参加しました。小池研究室は、ミニバスの外装、バス停、時刻表、マスコットキャラクター、Webサイト、広報誌などのデザインを担当しました。



学生がデザインした、あたごミニバスのバス停

「おしょくじ」が神奈川新聞に掲載

環境情報学部岡部研究室の瀬谷昂宏・大間知卓が中心になって行っている「おしょくじ」プロジェクトが、10月17日(日)の神奈川新聞で紹介されました。「おしょくじ」プロジェクトは、横浜キャンパスのある中川駅周辺の飲食店の情報、特色を「おみくじ」としてデザインしたものです。

現在、27店舗にご協力いただいています。現在「おしょくじ」は横浜キャンパスに常設してあります。また、都筑区の様々なイベントで地域の方々にひいてもらっています。

今後は、定期的の中川のまちなかでひいてもらえるよう展開していく予定です。



「おしょくじ」の箱、岡持ち



札紙



神奈川新聞の記事

学生選書ツアー 2010 を開催

図書館では、10月13日(水)に世田谷、横浜、等々力の3キャンパス図書館合同で学生選書ツアーを開催しました。このイベントは、図書館の利用充実を進める取り組みとして、昨年度から実施している企画です。今回は、22名(世田谷14名、横浜4名、等々力5名)の学生の皆さんが参加しました。

今回の選書ツアーでは、重複図書などを除き、341冊(世田谷199冊、横浜26冊、等々力116冊)を受け入れました。受け入れた図書は、参加者自らが作成したPOPと共に展示し、続々と貸出し利用されています。(Webの書棚に表紙画像を載せていますので、どうぞご覧ください。東京都市大学 学生選書ツアーの本棚 <http://booklog.jp/users/tcu>)

図書館では、学生の皆さんの視点で選ばれた魅力ある蔵書を増やすため、今後も選書ツアーを継続し、学習・研究や学生生活に大いに活用されることを願っています。



横浜キャンパスでの展示の様子



横浜キャンパス広報ビジュアル



学生選書ツアーの本棚
<http://booklog.jp/users/tcu>

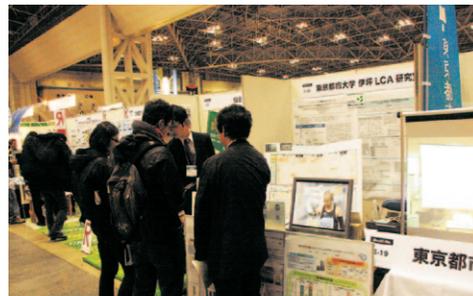
12月 伊坪研究室がモバイルで製品の環境情報を見るための仕組みを試作

環境情報学部伊坪研究室は、社団法人産業環境管理協会の協力の下、環境ラベル「エコリーフ」をモバイルの画面で見られる仕組みを開発し、試行運用を行いました。

現行のエコリーフは、製品に貼付された登録番号をインターネット上のエコリーフのウェブサイトに入力することで環境情報が得られる仕組みで、買い物などの際にすぐに情報を入手することは困難でした。エコリーフの環境情報をモバイル用のウェブサイトに抜粋し、QRコードを読み取るだけでそのサイトから環境情報を入手できる仕組みを作ることで、消費者が環境情報に触れる機会を増やすことが狙いです。

このQRコードを使った試みは、「エコプロダクツ 2010」（東京ビッグサイト・2010年12月9日～11日）の会場で展示し、来場した方に試していただきました。

写真協力：東京都市大学新聞会



「エコプロダクツ 2010」出展の様様



出展ブースで展示したエコリーフとそのQRコード



◀ 社団法人産業環境管理協会のブースでの展示の様様
(エコリーフの展示の中に伊坪研究室が作成したQRコードを付けていただきました)



AP-09-061
2009年8月21日 登録

この製品の環境負荷に関する情報を携帯電話の画面で確認できます



作成 東京都市大学 伊坪徳宏研究室
www.yc.tou.ac.jp/~itsubo-lab/

「エコリーフ」と会場で展示したQRコード▶
(QRコードを読み取ると伊坪研究室が作成したモバイルサイトで製品の環境情報を見ることが出来ます)

エコリーフとは：

「エコリーフ」は、環境ラベルの要件を定めたISO14025でタイプ企に準拠した環境ラベルで、対象製品の環境情報をラベルとともに表示したものです。

第7回神奈川産学チャレンジプログラムで入賞

環境情報学部の岡部研究室、清水研究室、田中研究室、渡部研究室所属の3、4年生を中心とした7チームが、神奈川経済同友会による「第7回神奈川産学チャレンジプログラム」において最優秀賞・優秀賞を受賞しました。

「大学生の学業や日常生活に役立つWebサイト活用術」、「親しみが持てる広報・PR戦略について」というテーマに取り組んだグループが最優秀賞、「羽田空港国際ターミナル駅（仮称）開業に伴う外国人旅客向けPRツールの作成・展開について」、「『かなぎん』に求められる地域密着型のサービスとは」、「泊まりたくなる客室の提案」、「環境に配慮した金融商品の提言」、「湘南の風土を反映した駅ビルづくり」というテーマに取り組んだグループが優秀賞という結果になりました。半年以上にもわたる地道な努力の結果が受賞につながったと思われます。

最優秀賞 岡部研究室 ▶
東日本電信電話株式会社
「大学生の学業や日常生活に役立つWebサイト活用術」

川産学チャレンジプログラム表
社団法人神奈川経済同友会



◀ 最優秀賞 清水研究室
株式会社神奈川銀行①
「親しみが持てる広報・PR戦略について」

